

## ● 変わる「薬学部」と「薬剤師」

「AI 技術が進展し、世の中に普及していけば薬剤師は取って代わられてしまうのでは？」という話をよく耳にするようになりました。実際のところ、AI が普及すると「食いつばぐれない仕事」の代表でもある薬剤師はその仕事を失っていくのでしょうか？実際に普及してみないとわかりませんが、現状の予測では**「半分正しく、半分間違い」**です。

AI の登場で変わる部分は確実にあるでしょう。しかし医療チームの一員として活躍する病棟薬剤師の需要は増しており、それ以外の薬剤師についても患者とのコミュニケーション能力がより求められる時代になっていることから、薬剤師が不要になることはないでしょう（外国人の数が増えていることから、語学力も求められる時代になるはずです）。要するに、**これまでよりも高度な薬剤師が求められる時代になる**ということです。

実際に国公立大学では「4 年制薬学部を閉鎖し 6 年生のみに」という動きが進んでいますが、これは「研究者（4 年制）は不要」という意味ではなく、「ファーマシストサイエンティスト（研究者兼薬剤師）」を求める姿勢です。

| 薬学部と薬剤師の変化                       |
|----------------------------------|
| AI に代替されない高度なスキルが求められていく。        |
| 患者とのコミュニケーション能力も重視されていく（語学力も）    |
| 研究の道も兼ねる「ファーマシストサイエンティスト」の需要が増す？ |

薬剤師については他に「地域格差問題」があります。都市部、とりわけ首都圏では人材不足は起きていませんが（むしろ飽和状態になりつつあります）、地方では深刻な人材不足が起きています。全国には薬学部の設置がない都道府県が 14 ありますが、とりわけ秋田県、山形県は大都市圏からの距離もあり、不足が深刻です。それに伴い、文部科学省は 2025 年度以降薬学部の新設や定員増を認めない方針を打ち出していますが、薬剤師不足の都道府県には例外的に認めるとしています。

## 教室より



薬学部や薬剤師のハードルが上がり、不利な進路になったように見えるかもしれないけど、AI に代替されない能力が求められるのは他のどの仕事にも共通して言えることなんだ。「人」であることの価値をどう作っていくか。大学生になった後、仕事に就くまでの間（就いた後も）ずっと追究していくべきテーマです。今回の薬剤師であれば、ただ薬剤師になるというところにとどまらず、「どんな薬剤師になりたいか」から考えてみると良いかもしれないね！